

大阪市立鯨江東小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】	
① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度より増加させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にはよいところがある。 ・ 宿題や勉強道具を忘れずに持ってきてている。 ・ きまりや約束事を守っている。 ・ あいさつをしている。 	(カリキュラム改革関連) B
② 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を前年度より増加させる。	(マネジメント改革関連)
③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を75%以上にする。	(カリキュラム改革関連)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【規範意識の確立】 各月の生活目標を、児童に周知するために児童朝会で毎月曜日に講話するとともに、学期に1回生活強調週間を実施し、児童会でも取り組みを行う。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ○ 生活強調週間を年3回実施し、チェックカードの結果を分析活用する。 ○ 児童会が関わる取り組みを学期に1回実施する。	
取組内容②【道徳教育の推進】 児童会を中心にあいさつ運動を実施し、自ら進んで元気なあいさつができるよう指導する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ○ 強調週間を年2回実施する。 ○ アンケートやチェックカードにより児童の実態を把握して、次の指導に生かす。	
取組内容③【人権教育】 人や自然との多様なふれあいを通して、自尊感情や思いやりの心を培う。 (カリキュラム改革関連)	
指標 次のような行事や活動を実施し、児童の活動の様子の観察や事後の活動・作文等により心の育ちを把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・異学年や地域の方と交流する場を設ける。（各学年、年間計画に合わせて実施） ・自然や環境について考える機会を設ける。（各学年1回以上実施） ・質の高い文化（音楽・絵画・芸術等）にふれる機会を設ける。（各学年1回以上実施） 	B

<p>・各学年、児童の実態に応じて、自尊感情を高めていくことができる取り組みを行う。</p>	
<p>取組内容④【防災教育の推進】</p> <p>年間計画に基づいて、災害時に備えた訓練を継続して実施する。</p> <p>(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)</p>	A
<p>指標 通常の訓練を年3回、地域と連携した訓練を年1回実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【安全教育の推進】</p> <p>PTA・地域との連携により、登下校の安全を確保するとともに、校内での安全な生活への意識を高める。</p> <p>(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次の2点でPTA・地域との連携を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行われている連携の継続 ・懸案事項等が発生した時のスムーズな連携 ○ 意識付けを図る強調週間の実施（生活強調週間を年3回実施する。） ○ 意識調査（生活強調週間のチェックカードで安全意識の高まりを把握する。） 	B

<p style="text-align: center;">年度目標の進捗状況や経過達成状況の結果と分析</p>
<p>取組内容①【規範意識の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活目標を周知、掲示し、年3回の生活強調週間を実施することで児童の規範意識が高まっている。生活強調週間の点検カード4項目の達成率は年間を通して90%を超え、全体として定着している。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活強調週間の点検カードでは、「ルールを守り、安全に登校」と「服装を整える」の項目は97~98%と高い達成率を保っている。 ・「廊下・階段を走らない」の達成率は、3学期にわずかに下がった学年が複数あった。 ○ クラブ活動で、ポスターを作成掲示し、児童会がパトロール、よびかけを行うなど、積極的な取り組みを行った。
<p>取組内容②【道徳教育の推進】</p> <p>あいさつ強調週間中は、チェックカードを活用することで意識が高まり、達成率は95%である。取り組み後は、あいさつの声も小さくなり、後期の学校生活アンケートにおいては、「あいさつができる」と回答した児童の割合は、学校：約62%、地域：約71%であった。</p>
<p>取組内容③【人権教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指標とする行事や活動は、学校全体や各学年で年間計画にそって実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童集会や行事の中で、たてわり班活動（異学年同士の交流）を積極的に取り入れた。上級生が下級生に思いやりをもって優しく接する場面が多く見られた。 ・各学年や児童の実態に応じた取り組みを行ってきた。 ○ 学校生活アンケートでは、「自分にはよいところがある」と答えた児童が、10月と2月を比べると約2ポイントの伸びがみられる。「よいところがない」と答えた児童は、わずかであるが、減少傾向があるものの、学年差が見られる。

取組内容④【防災教育の推進】

- 年間指導計画に基づいて、風水害・地震・火災の各1回、避難訓練を実施した。また、地域と連携した総合的な防災訓練を11月に実施した。
- 2月の学校生活アンケート集計で、火事や地震のときに自分の身を守る方法を「知っている」「だいたい知っている」と答えた児童の割合は、10月と比べて大きく伸びている。「知っている」は約76%で、肯定的な回答は約98%になった。今後も災害が起ったときのことを想定した指導を行い、児童の防災に対する意識を高い状態のまま維持させていきたい。

取組内容⑤【安全教育の推進】

- 地域の方々の協力の下、登下校の見守りを実施することができた。
- 生活強調週間を年3回実施した。点検カードの項目に「ルールを守り安全に登校」「廊下・階段を走らない」を入れ、意識づけを図った。
- 「ルールを守り安全に登校」は、年間を通して95～97%の達成率であった。「廊下・階段を走らない」は、86～91%の達成率であった。校内や下校時の児童の安全意識が低いので、引き続き学級などで声掛けを行い、指導していく。

来年度への改善点

- ① 「忘れ物をしない」の項目については、80%台と達成率が低く、さらなる注意喚起が必要である。
- ② チェックカードの集計にも児童会が関わることで、児童の意識にも改善がみられると思われる所以次年度へのむけての取り組みとしたい。
- ③ 自尊感情をもちにくい児童の理解を深めていくことが課題である。
各学年・児童に応じた取り組みなどを積極的に行ったり、些細なことでも児童のいいところを見つけ、声掛けをしたりすることで自信をつけさせていきたい。
- ④ 防災についての知識は比較的ついてきたと思うので、それを行動に結び付けられるようにしていきたい。
- ⑤ 校内だけでなく、下校時の児童の安全意識が低いので、今後も継続して指導を続けていく必要がある。